

住人十色

第
200
回



◎ (左から) 崎野さん、矢野さん、井上さん、竹内さん、久保さん、山本さん、佐伯さん。
自分の心臓の鼓動さえ銃口に伝わる繊細な競技で「どうすれば上手くいくか」を求め続けた。

狙い澄ました一射で歴代最高記録 自らを高め続ける7人の挑戦

内子高校ライフル射撃部の皆さん

「第64回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」が開かれ、内子高校ライフル射撃部の7人が挑みました。B R女子に出場した久保^{ひさか}さんは2度目、山本^{みさき}さん、佐伯^{さか}春香さんは初の全国大会。緊張の場面で「実力は出せた。でももう一步伸ばしたかった」と口をそろえます。会場ごとの感覚の違いなど、ささいなことが結果に影響します。B Pにも挑んだ佐伯さんは「好調だったのに、少し練習間隔が空いただけで崩れる」と、調整の難しさを語ります。本番の鍵は、集中を維持すること。崎野^{かいた}快人さんは「外しても引さずらないことが大事」と力を込めます。井上^{かずさ}一輝さん、竹内^{りょうま}涼真さん、矢野^{せいま}成真さんは学校対抗戦にも出場。高精度な射撃をそろえ、同部歴代最高の4位入賞を果たしました。「あまり実感がなくて」という3人。喜びよりも「3位にあと1点、届かなかった悔しさが大きい」と振り返ります。それでも自分を高めるために努力した日々は、選手を一回り成長させました。キャプテンを務めた井上さんは「たくさんの人と関わり、刺激を受けた3年間。頑張った経験が、しんどいときも『なんとかなる』と思わせてくれるんじゃないかな」と、充実の表情を浮かべました。

編集 幸記

▽過去の自分を超越するために挑戦を続ける子どもたち。取材をさせてもらうと毎回「すごいなあ」と感心しきりです。私が過去を更新し続けているのは体重くらい。天高く馬肥ゆる秋ですね。ちなみに私は丑年です(史)
▽全国大会へ出場した子どもたちを取材。十分すごい結果だと思ってしまうですが、皆さん口をそろえて「もっとできる」と話してくれました。その向上心、そして支え続ける保護者の皆さん。本当に頭が上がりません(花)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

